

No.	種名	上士幌	陸別	足寄	本別	浦幌
4	カラフトタカネキマダラセシリ ジャノメチョウ科	○	○	○	○	⑫
2	ベニヒカゲ	○	⑬	未	未	未
9	ヤマキマダラヒカゲ	⑭		⑮	⑯	○
10	サトキマダラヒカゲ	⑰	⑱	⑲	⑳	○
	シロチョウ科					
8	エゾシロチョウ	㉑	㉑	㉑	㉑	㉑
	タテハチョウ科					
6	ミスジチョウ	○	㉒	○	未	○
20	オオウラギンスジヒョウモン	○	㉓	○	○	○
23	メスグロヒョウモン	○	㉔	○	○	○
28	ヒメカラフトヒョウモン	○	㉕	○	未	○
	シジミチョウ科					
6	ミズイロオナガシジミ	○	㉖	○	○	○
7	ウスイロオナガシジミ	○	㉗	㉘	㉙	○
8	ウラミスジシジミ	○	未	㉚	未	○
15	ハヤシミドリシジミ	㉑	未	㉒	未	○
16	ウラジロミドリシジミ	㉓	未	未	未	未
18	エゾリンゴシジミ	○	㉔	○	○	○
24	イシダシジミ	㉕	○	未	未	未

## 註

㉑	1975. 6. 11	万年	松本尚志	㉔	1970. 9. 7	薰別	笠井啓成
㉒	1973. 8. 11	トマム	東 誠	㉕	1972. 7. 19	薰別	笠井啓成
㉓	1975. 7. 25	幌加温泉	高橋真弓	㉖	1973. 7. 下旬	トマム	東 誠
㉔	1975. 7. 27	芽登川	高橋真弓	㉗	1973. 7. 下旬	恩根内	東 誠
㉕	1975. 7. 29	神威山	高橋真弓	㉘	1975. 7. 29	足寄駅西方丘陵	高橋真弓
㉖	1975. 7. 26	清水谷	高橋真弓	㉙	1975. 7. 29	神威山	高橋真弓
㉗	1975. 7. 28	川上一分線	高橋真弓	㉚	1975. 7. 29	足寄駅西方丘陵	高橋真弓
㉘	1975. 7. 27	芽登川	高橋真弓	㉛	1975. 7. 26	上士幌東側柏林	高橋真弓
㉙	1975. 7. 29	神威山	高橋真弓	㉜	1975. 7. 29	足寄駅西方丘陵	高橋真弓
㉚	第 6 号のミス・プリントで追加訂正。			㉝	1975. 7. 26	上士幌東側柏林	高橋真弓
㉛	1975. 7. 5	トマム	東 誠	㉞	1972. 6. 30	薰別	笠井啓成
㉜	データ未着。			㉟	1975. 7. 26	上士幌東側柏林	高橋真弓

(浦幌中学校教諭)

## &lt;シンポジューム&gt;

## 中浦幌駅遷所と中川北松(VI)

## 博物館報告編集局・編

山崎徹 北松さん、先代の方は熊谷農場時代に小作をしていたというのは、畠の仕事なんですか

ども、後にこれだけのことをやった方ですから熊谷農場時代も単なる小作ではなかったんでしょう

ね。

**中川政雄** ええ。入った年は小作なんです。その翌年かと思うんですけど——ちょっと私それを聞きそこなっているんですが——大体想像するに翌年あたりだと思うんですが、熊谷農場の管理人に松平という立派な学者で監督がいたんです。そして、字は判らないのですが、「チュウベエ」といって悪徳小作者がいたんです。何年も年貢を納めないので、松平という監督が、「中川、お前俺と一緒に行ってくれ。」というわけで、「どこへ行くのですか。」と言ったら、「チュウベエのところへ年貢取りに行くんだ。」とね。それで「私一人ではどうもなんだから、馬場助右衛門隣りだから馬場助右衛門もつれて行くか。」ということで、うちの親父と馬場助右衛門とそして熊谷万蔵といって監督さんのところで小間使いをしていた大きな相撲取りみたいな親父と行った。

**山崎徹** その人は熊谷さんと親戚ですか。

**中川政雄** 何でもないです。それと監督と4人で行ったんです。朝まだ霜柱が立っている頃行つたんですけど、入いたら真白い米の御飯に砂糖のような物をかけて食べていた。そして、もう5年も6年も年貢を払わないのだが俺もこの農場預かって親方に申し訳けないから、できるだけの年貢を払つたらどうだと言つたら、「よし、払う。金で払うか物で払うか。」と言うんで、「それはお前の好きなようにやれ。金があれば金でくれればいいし、金がなければ物でいい。」と言つたら「よし判つた。」と言って奥へ入つていって、そして村田銃で「金でやるぞ。」ってドカーンと一発よこしたのが松平監督さんに当つてしまつた。松平監督さんそこでバッタリ倒れたんだけれども、監督をうちの親父と馬場さんとで肩にかついで外へ逃げた。そうしたら、その熊谷万蔵という小間使いが土足のまま奥へ飛び込んで行ってチュウベエから鉄砲をとりあげて、鉄砲でなぐってなぐってなぐりまくつて、目玉が飛び出たんだそうだ。それでも悪党だから半日位仲々死ななかつたといふ。

**山崎徹** 松平さんはそこで死んだんですか。

**中川政雄** ええ、即死です。

**山崎徹** とっくんで行ったのは誰ですか。

**中川政雄** 熊谷万蔵という男です。

**山崎徹** そのすごい男ですか。

**中川政雄** ええ。その男が鉄砲をとりあげてなぐ

ったんです。昔はしきりといつてもムシロをぶらさげてあったんです。寝る所と居間の間にムシロを2~3枚ぶらさげてあったんです。そのムシロとムシロの間からドーンと撃つた。そしてうちの親父が大津の熊谷さんのところへ乗馬で走つて「こういうことになつた。」と伝えたら、「ああ、惜しい男を殺したな。困つたな。」と非常に嘆いて黙つて頭を垂れていたけれども、「北松さん、誰々が居たんだ。」と言うので、「こういうわけで、これこれ。」と言つたら「春吉行かなかつた」と言つた。大西春吉という人もやはり熊谷農場で小間使いみたいなことをしていた。「春吉さんは行かなかつた。」と言つたら「うーん、それじゃお前早速帰つて葬式の仕度してくれ。帰つてその春吉をよこせ。」と言うんですね。帰つて来て「春吉さん、こういう訳で熊谷農場の親方がお前に用事があるというので行ってこい。」と言って、その春吉という人が乗馬でまた大津まで行つたんです。その春吉というのはまだ17歳だった。

**山崎徹** 誰がその春吉を大津まで迎えに行つたんですか。

**中川政雄** いや熊谷農場にいたんですから、熊谷農場の小間使いみたいなことをしていたんです。その人をよこせという訳です。それすぐその馬でやつたわけです。「お前が叱き殺したことに入れ。」というわけで。うちの親父嘘を言ったことになるからとその話をすることを嫌つたんですけれども、その話を私等に1度か2度話したことがあります。

**山崎徹** 本当は万蔵がなぐり殺したんですね。

**中川政雄** ええ、万蔵がやつた。

**山崎徹** そしたら、万蔵を助けたいがために春吉に監理人が殺されたのを見てしゃくにさわつてチュウベエにとつかかつていて鉄砲でなぐりかかったのは春吉だということに警察には言えと監理人のかわいい子分だった春吉に言ったんですね。

**中川政雄** そうそう。未成年だったから無罪に終つたんです。

**山崎徹** それでそのまま変な嘘は通つたんですか。

**中川政雄** そうですよ。

**山崎徹** その話は今、書いても時効だからいいですね。

**中川政雄** 時効だからいいですよ。だけどうちの親父やかましくて、そういう嘘が警察に知れたら

大変だというので。

山崎徹 熊谷さんは大津にいたわけですね。チュウベイの家はどこにあったのですか。

中川政雄 熊谷農場に。

山崎徹 熊谷農場の中にあったんですか。

中川政雄 浦幌の分です。今の朝日という部落にいた古い小作です。

山崎徹 家族はあったんでしょう。

中川政雄 何もない一人者です。

山崎徹 そのチュウベエは本当に目玉が飛び出る程なぐり倒されて3日3晩唸って死んだんですか。

中川政雄 いや、3日3晩ではないが半日位唸っていたんだそうです。朝やって、午後の2時か3時頃まで唸っていたというから。

山崎徹 朝の事件ですね。この後この事件を扱ったのは浦幌ですか。

中川政雄 いや、大津警察署。

山崎徹 明治何年頃ですか。

中川政雄 明治32~3年頃じゃないですか。

山崎徹 これは調べればすぐ判ります。明治35年でしたか「大津事件」というのがありました。

中川政雄 ④派とあれの…。

山崎徹 ④派と柏木久三郎ですね。数年違いますね。

中川政雄 そうです。先か後かというところです。その時もうちの親父ら現場は見なかったけれどもちょっとした戦争ぐらいの音はしたそうです。ダン・ダン・ダン・ダン・ダン・ドン・ドンと、そして真綿のチョッキを着ていたんでいくら弾があたっても通らなかった。そして警察署長のてごろの下に逃げこんだのを引きずり出したんだ。署長もだんべら持った奴等には手が出せなかったと言うんだ。

山崎徹 帯広警察署大津分署と言ったんだそうですね。

中川政雄 そうだろうか。帯広よりは大津の方が早いんですから。その頃女郎屋もあったし大津は大したものだった。

山崎徹 大津には2軒すごいのがあったんですよ。まだ、女郎屋に関係のある方がいるものですから…。それから柏木久三郎を殺して釧路で死刑になった方の子孫もまだ生きておられます。

中川政雄 そういう事件があったんですね。署長というから私警察署になってたのではないかと思

うのだけど、その頃はどんどんと舟は大津に入いるし。

山崎徹 ここに記録してある3ヶ所の駅通所のことなんんですけど、利別太の駅通所ところで大津事件で殺された柏木久三郎を大津まで運んで、更に危ないというので大津から釧路まで運んだのが実は利別太駅通所の馬櫓なんです。そしてその馬夫が鉄砲弾の流れ弾を額から耳に受けたんです。そして馬櫓に鉄砲弾の痕が5~6発あるんです。全部根室地方裁判所で調べたんです。その時の記録によるとそれが明治35年なんです。

中川政雄 明治35年なら監督さんが殺された後だな。

山崎徹 あとですね。これは調べれば判るんですが、最初は大津は幌泉の分署であったというんです。池田はまだ渦寒村巡回駐在所という時代だったらしいんです。

中川政雄 とにかくその頃は大津から舟で十勝川をさかのぼって今の豊頃町茂岩で荷物を積んだり降ろしたりして、また利別まで行って利別でまた積み降ろしをして、帯広まで行ったんですから。ほとんど荷物は舟ですよ。ここでとれた雑穀なんかも全部、今の豊北の橋のところに大津から大きな舟が来て雑穀を山に積んであるのを舟に積みなおして大津まで運んでいったものです。

山崎徹 私、聞き落としましたが煙草・酒と塩以外に店には駅通所と同時にそれ売り出しましたか。

中川シズ そうですね。ほとんどそうですね。

山崎徹 酒・塩・煙草ですね。

中川武雄 菓子類・砂糖・煮ぼし。

山崎徹 これらはどこから仕入れた品物でしょうね。

中川政雄 浦幌からです。

山崎徹 浦幌の卸屋はどこですか。

中川政雄 卸屋は何軒もあったんですけど、私米なんかは④からもってきた記憶あります。

山崎徹 ④ですか。

中川政雄 高室。今印刷屋をやっている。

山崎徹 酒はどんな酒ですか。

中川シズ 樽でした。

中川政雄 焼酎と酒は一樽ですね。

山崎徹 焼酎は誰が飲むんですか。

中川シズ 部落の人が買いに来るんです。

山崎徹 アイヌの人々は。

中川シズ アイヌの人達も来ましたけど割に緊張

していました。シラミとノミがいるんで座敷にあげて泊められないんです。2人して熊を獲りに来るでしょう。

山崎徹 熊が出たんですか。

中川シズ ここははじめは熊の巣でしょう。熊・狐・タヌキ・鹿なんてぜんぜん珍しいものでない。私は熊の姿は見なかったけど痕は何回も見ました。木をかっちゃいたり。

山崎徹 この辺で一番見られる動物といったら何ですか。

中川シズ その時ですか。やはりキツネ・タヌキ・ウサギとかね。鹿もよく出ました。

山崎徹 そうするとアイヌの人達は何の仕事をしていました。

中川シズ 鉄砲もって、そういうことばかりしているんです。本別の方にアイヌ部落があるでしょう。そこから来るんです。「泊めてくれ。」と言われても、アイヌの人達は蒲団も何もいらないですから座敷には上げないで庭が広かったのですからそこへムシロを敷いて……。

山崎徹 野宿ですか。

中川シズ 野宿じゃない。玄関入ったところです。

中川政雄 「白鹿」という酒取り扱かった憶えあるな。

山崎徹 今でもありますね。

中川シズ そして足にはいて来た「ケリ」というものを外に置いておくと硬くなってはけないからムロに入れてあげるんです。ムロに入れておくと柔らかいんです。そしてごはんの時だけ縁側のハナへ上げてやったんですが、その時の姿は何とも言えない姿で、お汁を飲む時とか焼酎を飲む時は鉢を箸で上げるんです。そしてチュッと飲むんです。

山崎徹 それはイクパシュイと言うんです。

中川シズ そして熊を獲ってきた時には是非とも熊の胃をくれるんです。礼式ですね。太陽にむかってこうやって白紙に載せて渡してくれるんです。

山崎徹 そのアイヌの人と取り引きしたことありますか。

中川政雄 ないです。

中川シズ 取り引きということはないです。その熊の油というのがヒビヤアカギレの薬になるというでよく使ったものです。

山崎徹 それは買ったんですか。

中川シズ もらったんです。その代り泊めてあげるのにもお金はないからもらわない。そして焼酎は飲ませてあげて、損も得もないです。

山崎徹 そうするとアイヌの人達が泊めてくれと言う時はその代り熊の骨とか油ですか。

中川シズ はい。今は違いますけどその頃はそれがよく効くんですね。

山崎徹 そうするとここに住んでいた者はいないんですか。

中川政雄 いないです。その頃、アイヌ語か北海道語か知らないけど狩人のことを「マタギ」と言ってね。

山崎徹 そのアイヌのことを「マタギ」と言いましたか。

中川政雄 ええ。

山崎徹 マタギという特殊な生活を送っている者がいつの間にかマタギと呼ぶようになってしまったんですね。

中川政雄 冬だけ来るんです。この辺には随分鹿がいたから。

山崎徹 主に冬ですか。

中川シズ 熊獲りは冬です。

中川政雄 鹿をここで40頭程獲った年があります。

中川シズ 浦幌川と留真川の合流点附近を鹿を通るのを何回も私見たことがあります。

中川政雄 木挽きさんが枕木を引き出しているところへ槍沢から追い出して捕まえた。私が捕まえたこともある。

中川シズ この頃、高室小吉さんらが一枚一枚切っていたでしょう。

中川政雄 この岩を鹿が槍沢から真直ぐ上がったことがあります。

中川シズ なかなかあったこと全部話せない。

山崎徹 写真でもあればいいんですがね。

中川政雄 私に、「頭のしっかりしているうちに書いておけ。」という人があるがどうも不精だから

中川シズ 私も言われているけど字も書けないしどうしたらいいのかもわからないし。

山崎徹 園遊会に出たり開拓功労賞をもらったりした人の記録をきちんと残しておいた方が浦幌町の名誉のためにもいいんじゃないかと思うのですがね。

中川政雄 開道50年の時も開拓功労者で表彰され私が代りに行って來たんです。

山崎徹 中川北松という人は開拓功労賞とか色々ありますのが生涯の中で何が一番の功労なんですか。今たまたま駅通所のことで駅通所を中心に中川さんを描いています。案外北松さんの奥さんが苦労した。そして奥さんが苦労したということが、男が外で仕事をすることができた。開拓功労者としての中川北松さんの蔭にはいつも辛酸をなめて家を守ってきた奥さんの姿が見える。功労者はそうすると奥さんの方じやないか。

中川シズ いつも父ばかり表彰されて、母は表彰されないので、一生懸命真直ぐ身を粉にして11人の子を育てていました。

中川政雄 うちの親父よりも2~3年早く入植した人も浦幌にはいたけど、それは自分らの開拓ですね。親父は20数戸の者を連れてきた。それから後にも国から頼って來た。そういう者全部に支庁まで通って土地をもらってやった。

山崎徹 そういう方達は今でも続けていますか。

中川政雄 やっています。

山崎徹 俺の親父は中川北松という人に世話になったんだということを知っているんですね。

中川政雄 1人か2人は知っているかもしれないが知らない者もあるさ。

山崎徹 開拓功労者としての推薦は役場ですね。即ち最終的には町長ですね。

中川政雄 産業組合を起こした元祖だし、畜産では十勝の……。

山崎徹 初代産業組合長ですか。

中川政雄 そうです。

中川シズ 村議会は何年ぐらいだろう。

中川政雄 村議会は20年位じゃないか。産業組合をやるようになってからは2口はダメだといつてやめて産業組合に一生懸命だったから。親父が退いてすぐ私が出たんです。ちょうど今年で30年です。

山崎徹 池田町にやはり農場の管理人で久島重義。この方も北松さんと同じような立場で開拓功労者として北海道庁で発行している『開拓の群像』という書物の中で「北海道の開拓に尽した人々」という中にあげられています。この人は実際には百姓ではなくて管理人だった。北松さんのように駅通所の仕事をしたり、そういうことをした本当に農民の側に立った人こそ私は『開拓の群像』の中に出てもいいのじやないかと思います。

中川政雄 売名的なことは大嫌いな人だった。自分で名前を売ろうなんてことは全々考えなかった。それだけ土地をもらってやったのだから、自分で「私も土地が欲しい。」と言えば好きな所をもらえたのだけれど、それももらわなかつた。それがうちの親父の美点だと思う。この駅通所は遅くなつてもらった。そして駅通が廃止になってはじめて土地がもらえた。

山崎徹 北松さんの根性というのはやはり福井時代のものですか。渡島へ行ったり足尾銅山に行ったり向こう気が強いといいますか、かなりきかないところがあつたのじやないですか。

中川政雄 あった。あった。

山崎徹 血からいくとお爺いさんの血ですか。

中川政雄 いや、お爺いさんというのはおとなしい人だったそうだ。婆さんのてりというのが仲々きかなくて有名な婆さんだった。

山崎徹 そうするとお母さんという人は姑さんに對する苦労というのがあったんですか。

中川シズ あつた、あつた。

山崎徹 そうですか。その婆さんにかわいがられたのが中川政雄さんですか。

中川シズ 大事な長男だから。

山崎徹 中川北松さんの父親はおとなしい人だった。てりというお婆さんが仲々根性のきつい方だったんですね。

中川シズ それはお婆さんが10歳の時に母親と別れて、14歳の時にお嫁に行った。そこの家では女気がないので味噌もしょう油も造ったんです。

山崎徹 14歳で中川家に来たんですか。

中川シズ そうです。味噌もしょう油も全部造つて食べさせて、縫い物も1時間も1分も習っていないのに着物をほどいて親戚中の着物を縫つた人です。私が14歳の時「着物の一枚も縫えないのか。」と怒られて私はその時始めて「綿入れ」というものをつくったんです。「教えて」と言つたら「忙しい」と怒られて、作つたら「このところだけ綿が入つてない。これは情けない。」今度作つた時は何とかして作りたいと思いました。私も学校へ行ってないけど一生懸命やりました。

山崎徹 このてりさんという方は、むこうでは女学校を出て……。

中川政雄 いや、学校なんかない頃だ。

山崎徹 浦幌町役場でてりさんの生まれなどはわ

かりますね。

中川政雄 わからないのじゃないかな。

山崎徹 シズさんが「着物1枚縫えないのか」と怒られた。そういうことが一事が万事で、きつい人だったんですね。そのかわり自分ではバリバリ仕事をした。

中川政雄 婆さんにくらべたら小さい女だから力もなかつたし。庄右衛門というのが私らのお爺さんですが、その人はおとなしい人だし体格も小さかったらしい。

山崎徹 シズさんはお爺さん似ですか。

中川シズ お婆ちゃん似かもしれない。やはり父親似かもしれない。

山崎徹 お年寄りでもこのてりさんという方は何歳まで足腰がしっかりして仕事をしていらっしゃいました。

中川シズ 仕立てものが主でした。96歳まで。

中川政雄 いやいや74歳まで。67～8歳からは仕事もしないで孫をしかりつけていたのが主だった。

中川シズ 4畳半に自分の部屋を裁縫部屋に作って目を真赤にして縫っていました。

山崎徹 中川さんの母にあたるあきさんという方は健康の方は……。

中川政雄 健康の方は弱かったです。それは子供が年子、年子でたまに1年おくくらいで死んだ方が多いくらいです。生きたのは私が頭で11人ですから。それに流産したりすぐ死んだりしたのが5～6人ある。だから子供で体をいためています。

中川シズ そして、内地から連れてきた人を畠で1年仕込むんです。そして小屋をつくって鍋・釜もたせて出すんです。

山崎徹 何ていいました。

中川シズ 何て言ったかね。

中川政雄 そんなのは1人か2人だ。

中川シズ いっぱいいたよ。畠部さん、塙田さん林さん。

中川政雄 そんなのは嘘だ。そんなことできるものではない。人間の限界があるもの。林さんなどは内地で結婚して金ももってきた。

中川シズ それはお金ももってきたけど。

中川政雄 戸倉さんもワラジ脱ぎした、鈴木恭松もワラジ脱ぎした。俺はお前よりも2年先に生まれているからだいたいわかる。そんなことはしないです。世話をすることはした。小屋までも作って

やった。

山崎徹 年季というのはありましたか。

中川政雄 ありました。3年から5年。

山崎徹 年季が明けてから小作人は大豆を……。

中川政雄 大豆・小豆いろいろ。

山崎徹 4斗5升ですか。

中川政雄 4斗です。

山崎徹 この3年から5年というのは土地によってですか。

中川政雄 開墾のしやすいところ、しにくいところ。

山崎徹 開墾分けというのはありましたか。いわゆる開墾したら何%小作人にやるとか。例えば1町歩開墾したら4反は前にやるとか。

中川政雄 それはないです。私のところの親父はさつきも言ったように自分で土地をもらったことがないんです。だから小作人というのではないんです。ただ、頼って来た者を半年か1年置いて、土地を貰ってやって分家のように出してやった。そんなようなのが5～6軒あります。

山崎徹 そうすると熊谷農場時代は。

中川政雄 全部小作で入いったんです。

山崎徹 そうするとある程度家族が食える程度の小作地はもっていたんですね。

中川政雄 はい。

山崎徹 そのかたわらそういう管理人の補助のような仕事もしていた。

中川政雄 だから小作人をしていたから非常に強かった。小作をしながら芋でも何でも粗末ながらもしくができた。そこから貰った土地へ通って開いた。そこで生活ができるようになって小作をやめた。

山崎徹 それはいつ頃ですか。

中川政雄 明治37～8年頃からです。

山崎徹 そうすると駅通の頃は完全に小作ではなかったんですね。

中川政雄 そうです。

山崎徹 そうして、駅通で土地を貰いましたね。牧場と畠地と宅地。そうすると自作地はどうなったんですか。熊谷農場の小作をしながら自作地に通い作した。やがて明治37～8年に小作をやめて完全に自作に切りかわったわけですね。

中川政雄 それは連れて来た人をですよ。

山崎徹 ああ、連れて来た人をね。

中川政雄 熊谷農場の監督が事故にあって、小作人から管理人になって農場主が熊谷から石垣にかかり、また建原という人に買却になって、建原農場の管理人で終って駅通に移ったんです。

山崎徹 そうすると建原の管理人をやめた時と駅通の管理人になったのが同じ時ですね。

中川政雄 そうです。そうすると熊谷・石垣・建原と3代の……。

中川政雄 そうです。だから自分の土地というのは駅通が廃止のとき貰ったのがはじめてです。それまでほとんど浦幌の自分の連れて来た人以外のもずいぶん貰ってやったけれども自分のは一つもなかった。

山崎徹 熊谷農場はその頃の行政区画でいうと。

中川政雄 生剛村です。十勝川1本で大津と分れるんです。熊谷さんは、これから奥の今の活平から貴老路小学校まで熊谷の牧場だった。それが成功できなかった。それでとりあげられたわけです。その後の監督もやつたけれど熊谷はだんだん没落していくし、泰藏さんが道楽して使い果してしまった。熊谷というのは大きかったんだが。

山崎徹 駅通の建物の建築年代の誤差については1月8日に道庁へ行くのでもう1度色々な文献を見て確認してみます。明治36年と40年以降というくいちがいを……。

中川政雄 それが許可をしたのが36年で5年も…。

山崎徹 明治41年に建物ができてすぐに仕事を始めたんですね。

中川政雄 そうです。駅通をやるために建てたなんですから。

山崎徹 里程表から言うと間違いないんです。明治36年4月29日に中浦幌駅通所。上浦幌へ下浦幌へですから。ここしかないんです。下なら大津という言葉が出て来るし、上だったら本別という言葉が出てくる。中浦幌がここだというのは間違いない。

中川政雄 浦幌は吉川一馬さんだった。私も吉川さんから青のカスメ馬にお客さんを乗せて来るんだから。またそれをかえしに行ったこともある。

山崎徹 とにかく留真では北松さん以前に駅通をやっていた人はいないですか。

中川政雄 ないです。

山崎徹 留真には中川駅通所以外にはなかったん

ですね。お二人の気憶では間違いないですね。

中川シズ 私の気憶に残るのは留真ですね。

山崎徹 留真温泉というのはここに入植者が入った頃には知れわたっていたんですか。

中川政雄 そうだろうと思うんです。アイヌが発見したか、ここに入いった人が発見したかわからないが。温泉に拝み小屋みたいなのを造って。

中川シズ 私がやれと言われてからは建てもらいました。下は馬小屋、2階は客間、3階は広間だった。

山崎徹 今の場所ですか。

中川政雄 湯元のところだった。

山崎徹 中川シズさんが留真温泉を手がけたということは浦幌町史に載っていますか。

中川シズ 私名儀ではないですから。

中川政雄 町史には載っていないでしょう。

山崎徹 名儀は誰になっていますか。

中川シズ それは北松です。

山崎徹 それは出ているんでしょう。

中川政雄 いや、出ていないです。あの町史なんていいのはいいかげんなものだ。うちの親父のことなんか半分も載っていない。

中川シズ 私は大工さんや木挽きさんなんかの御飯焚きに17歳の時に行かされて、御飯を焚いてかわいがられた。大工さんの子供かと言われてなさけなくて。そんなことがあったんです。17歳から20歳まで。

山崎徹 今までのお話は聞いて記録しておかないと埋めてしまう話ですね。

中川シズ だから田中さんがね。今日のこの日になるなんて考えもしなかった。田中さんからお葉書をいただいて故郷に行けると思って嬉しくて眠られないんです。

山崎徹 この図面の中で客間は下の4つと上の2つですね。そしてこの8畳に父親夫婦がいたんですね。

田中利 左に1つあったから下は3間です。

山崎徹 この10畳間の真中に炉を切っておりました。

中川シズ 真中じゃないです。みんなかたよっていました。

中川政雄 畳半畠位の大きさです。

山崎徹 客間の炉は小さいですか。

田中利 小さいです。

山崎徹 炉は全室にあるんですか。暖い時には畳が入るんですね。道路側に玄関がありますが通送用の郵便箱はどちら側にありました。店はどこだったんですか。

中川シズ この6畳が店です。

山崎徹 玄関とび出でていませんですか。

中川シズ 出ていません。

山崎徹 この玄関はそっくり移動しているんですね。

中川シズ いや、ちがう。川畠さんが作った。

田中利 こっちの3畳と6畳の縁側は3尺出ているでしょう。それから2階も縁側の下も3尺入っていた。この廊下の方に2階への階段があった。

中川シズ 階段の下に時計がかかっていた。

中川政雄 玄関入いって真直ぐ階段があったような気がする。

田中利 この6畳はほとんど玄関のようなかつこうだったと思う。

中川政雄 川畠さんになってから造作したものだ。

山崎徹 色々ありがとうございました。

中川シズ しっかりしたことがわからなくて。

高松孝行 長い時間ありがとうございました。

中川政雄・シズ どうもありがとうございました。

高松孝行 どうもありがとうございました。

(終)

## 浦幌町稻穂出土の装身具

後藤秀彦



Map 1 装身具出土位置

ここに紹介する資料は、1962年頃浦幌中学校生徒によって採集されたものである。採集された詳細な年月日、採集者の氏名等は不明であるが、現

在同校教諭松本尚志氏のもとに所蔵されており、1975年筆者が同校を訪れた際松本氏によりその形成時期・用途などについて照会を受けたものである。筆者は、本資料が北海道内にあっては数少ない出土であること、先史時代の装身具を考える上で貴重な資料であると考えここにその概要をとりまとめ報告するものである。

Map 1に示した如く南流する下頃辺川の左岸には通称「吉野台地」と呼ばれる十勝川による河岸段丘が発達し南に向かって緩傾斜する大きな舌状台地となっている。この河岸段丘の先端部付近には下頃辺遺跡（泉1959）・平和遺跡（大場・明石）・吉野遺跡（大場・後藤1973）などの縄文早